

3. LGBTへの配慮について ～今日からできることってなんだろう？～

📌 カミングアウトを受けたら

LGBTの人からカミングアウトされたら、驚くかもしれません。その一方で、LGBTの人はカミングアウトをする時に、理解をされないのではと不安を抱えていることも少なくありません。

カミングアウトを受けた時は、以下の言葉を思い出してください。

「話してくれてありがとう」

より良い関係をつくるためのステップとしてカミングアウトをする場合があります。信頼して話してくれたことに対して、「ありがとう」と伝えてください。

「なにかできることある？」

困っていることがありカミングアウトをする場合があります。その際は、本人の意向を確認し、必要に応じて専門の相談先や支援団体等を伝えてください。

「他に知ってる人いる？」

アウティング*を避けるため、本人が開示している範囲を確認してください。

*本人の同意なく第三者にセクシュアリティを伝えること

県内のLGBTの人の声

- 🔊 カミングアウトしたら、嫌悪感を示されました。(20代 FtX*トランスジェンダー)
 - 🔊 職場の信頼できる先輩にカミングアウトした際「もっと早く言ってくれば良かったのに！話してくれてありがとう！」と受け入れてくれて、職場でもありのままにいられる場所ができました。(20代ゲイ)
 - 🔊 カミングアウト当初、家族に「他人ならば許容できるけど家族だと難しい」と言われました。時間をかけ、理解し、受け入れてもらうことで、ようやく自分を認め、自信を持つことができました。(50代 MtF トランスジェンダー)
- *<からだの性>が女性で、<こころの性>を男女どちらかに分けない人

📌 こころがけたいこと

LGBTの人は、外見からは分からない人もいますが、共に生活しています。何気ない言葉で傷つけていることがあるかもしれません。

「ホモ」・「オカマ」・「レズ」など、LGBTへの差別的意味合いを含む言葉は使わないよう、配慮しましょう。

▼メモ

- ・「アライ (ally 味方、協力者)」は、LGBTを理解・支援する人のことです。
- ・「6色のレインボーカラー (マーク)」は、LGBTへの理解や応援を表す世界で広く使われているシンボルで、赤・橙・黄・緑・青・紫で構成されています。



©2008 laverrue

4. Q&A ～LGBTに対する誤解・偏見の解消のために～

Q 同性愛は病気ですか？それとも趣味ですか？

A 同性愛は病気ではありません。また、性的な趣味でもありません。恋愛の対象が同性に向く人もおり、おかしいことではありません。

Q LGBTの周知が進むと、LGBTの人が増えるのではないですか？

A <こころの性><好きになる性>は自分の意思などで変えられないと考えられており、LGBTの周知が進むことで、LGBTであることを表明する人は増えても、LGBTの人が増えるわけではありません。

Q 見た目やしぐさ、言葉遣いでセクシュアリティはわかりますか？

A 人によって表現の仕方は様々です。そのため、見た目やしぐさ、言葉遣いだけでセクシュアリティは判断できません。

5. 県及び市町村の取組

群馬県及び市町村では、LGBTについての理解を促進し、支援につなげるための取組を進めています。

【取組の事例】

- ・行政職員や教職員等の理解を図るため、研修会を実施しています。
- ・広報誌等で情報発信を行い、周知を図っています。
- ・講演会の実施により、理解や周知を図っています。
- ・印鑑登録証明書や期日前投票の宣誓書等における性別欄を廃止したり、投票所の入場券の性別欄を記号や数字で表記している市町村があります。